

名古屋記念病院

草深 武内 細川 田所 中西

裕光 有城 真波 史江 敏博
副院長 副院長 看護部副主任 管理栄養士 薬剤部副主任



取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

名古屋記念病院 NST(栄養サポートチーム)の活動について

名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)は、患者さんの病状回復に大きな役割を果たしているNST(栄養サポートチーム)を全科にいち早く導入して早期退院を実現するなど著しい成果を上げている。

いまでは医療上欠かすことのできない存在になっているNSTについて草深裕光副院長、武内有城副院長、細川真波看護部副主任、田所史江管理栄養士、中西敏博薬剤部副主任の五人に話を聞いた。

Q.NSTについて分かりやすく説明してください。

●草深副院長/医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など各分野の専門家がチームを組んで入院患者さんの栄養状態を多角的に検討し、評価して患者さんにとって最適な栄養管理・補給を行う医療チームのことです。

●武内副院長/このNSTのシステムは、1970年代に米国で入院患者さんの栄養状態を調査し、分析した結果、適切な栄養管理を行って栄養状態を改善すれば合併症の発生率の抑制、院内感染の防止につ

ながることが明らかになりました。こうしたことを契機に医療関係者の中で栄養状態に対する意識改革が広まり、あっという間に米国や欧州に普及しました。

Q.栄養状態の改善による効果は予想以上だったわけですね。

●武内副院長/しかも効果はそれだけではなく入院期間の短縮や治療費の削減、さらに治療成績の向上や予後にも好影響をもたらすなどNSTの重要性が認識され、治療法として確立しています。国内では、三重県の鈴

鹿中央総合病院が1998年に初めて導入しました。

Q.欧米に比べて遅い感じがしますね。

●武内副院長/日本の医学教育には栄養学を学ぶ講座がないため、栄養管理・補給の関心の低さが導入の遅れになったのだと思います。

●草深副院長/実践的な栄養学の講座がないために医師は栄養に関する知識を習得することができないのが実情です。このため、多くの医療機関では患者さんの健康状態に対応した栄養管理・補給よりも簡単な点滴パック製剤や中心静脈栄養が優先して行われる傾向にあります。

Q.栄養管理・補給に対する意識は十分とは言い難いですね。

